

わかった！できた！



令和元年9月20日 No.4

○「学力フォローアップ校事業」第3回校内研修がありました。

令和元年9月12日（木）に第3回目の校内研修がありました。

今回は、3年1組で「時間と長さ」の授業を通して、児童が「わかった・できた」を実感できる授業づくりについて、研究協議を行いました。研修で得た成果や課題をこれからの取組に生かしていきたいと思えます。

研究協議（○成果 ▼課題）

授業後の研究協議では、主に低中高学年別によりグループになり、そこで成果と課題を出し合いました。

【高学年チーム】

○子どもたちが日頃からタブレットを使い慣れてきたため、タブレットを効果的に活用できた。

○前回の研究授業で行っていた音声計算を早速実践していた。

▼児童のつぶやきや疑問を拾って全体に広げ、課題解決への見通しを持たせるとよい。

▼必要な情報を見つけたらマーキングさせるなど、表の見方を工夫させるとよい。

▼ゆさぶり方も検討が必要

1 km 500m+600m=1 km 1100mでゆさぶってみるとよい。

▼低学年で取り組んでいる、単位をそろえる計算の時の方法（同じ単位に下線や下波線をひかせる）を取り入れるとよい。

【中学年チーム】

○タブレットの使用は子供の意欲を高め効果的であった。

○「単位をそろえる」を意識させるために誤答を出したのはよかった。

▼最初から表（長さ）と地図を出していてもよかった。

▼地図をずっと表示しておいて、計算するとき、説明するときのツールにできるようにするとよい。地図と図と式がつながるような手立てがあるとよかった。

【低学年チーム】

○タブレットは本当に意欲付けとしてよかった。

▼タブレットは、活用の仕方に慣れていないなど、時にはつまずきの要因にもなる。

○単位をそろえることを意識させてよかった。

▼計算のつまずきがある児童への手立ても必要である（ひっ算のように考えるなど）

▼必要な情報をぬきとる際に、アンダーラインや印をつけるようにするとよい。

▼距離と道のりの違いや、道のりという言葉の意味をしっかりとおさえる必要がある。

指導助言

(広島県西部教育事務所 舞 慎一 指導主事)

- つまずきをもとにしたスタートとゴールを意識しているのがよい。
- 協働的な協議が素晴らしい。特に児童の実態、つまずきの要因を自分のクラスのことと考えているところがよい。

【授業について】

- 音声計算がよかった。習熟を図るのにとてもよい。大切なことを全員に言わせるという体験も必要である。
- ICTの活用もよかった。タブレットを一人1台使わせたことや前時の復習を行ったことなど、学習内容へのつまずきの手立てもとても丁寧だった。児童のつまずきを想定して具体的に手立てを考えられていた。

【フォローアップの取組について】

「対象児童のつまずきの想定」より

- 本校は「児童の実態要因の分析シート」を用いて全教員で協議し、児童のつまずきを学習過程（1時間の授業）の中で予想している。それを「対象児童つまずきの想定」シートとして学習内容と学び方に分け、また場面（めあてをつかむ・自力解決・全体交流・学習のまとめ適用問題・振り返り）ごとにつまずきを考えてみてはどうか。そこからつまずきの手立てを考え、どの場面でどのような支援をするかを考えてみてはどうか。
- 授業の前後の手立て。授業中での手立て（ICTを使う、道のりを1本線で表記する、同じ単位に下線、下波線をひくなど）を具体的に考えておく必要がある。

(廿日市市教育委員会 福島 千恵子 指導主事)

- 児童のノートを見て指導がされていることが分かった。学校全体で取り組んでいるところがよい。
- 学力調査で明らかになったつまずきがある学習内容を研究授業で取り上げ、さらに学力調査の問題をそのまま適用題に用いていたところがよい。
- 意図したICTの活用（解決の見通し、主体的に学ぼうとする前のめりの姿）ができていた。

